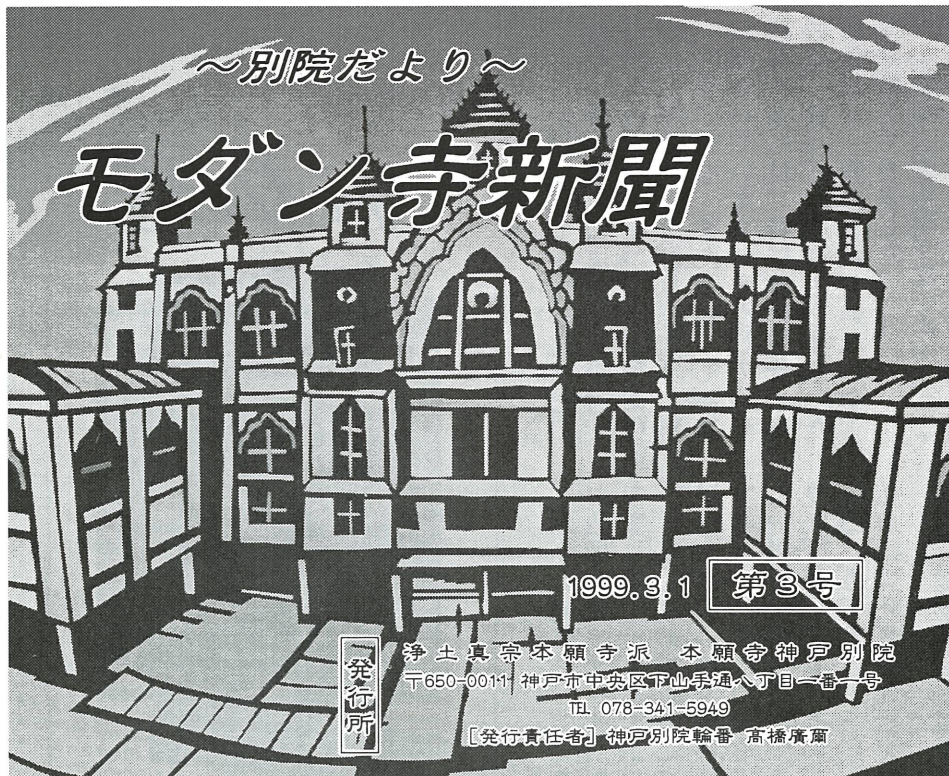




モダン寺新聞  
～今号の記事～

一口法話「お彼岸」  
浄土真宗の作法くお仏壇く  
神戸別院の行事レポート

4 P 2 P 1 P

# 一口法話 「お彼岸」

神戸市 中央区 徳照寺 廣岡 行信

バスは夕闇迫るインドのデカン高原をひたすら走っていました。明かり一つ、人つ子一人見当らない広大な荒地の黄昏時。突然、バスのライトに一人の少年が一匹の小山羊を抱え、トボトボと歩いている姿が見えました。一瞬立ち止ってバスを見送る少年は、忽ち後に過ぎ去っていきます。思わず振り返って少年を追う私の目には、少年の背後にデカンの岩山のシルエットが黒々とクッキリ浮かび、真赤な夕日が鮮やかに輝きつ、地平の彼方に沈もうとしている光景が映ったのです。それはまさに一幅の崇高な宗教画のようでした。

その様子は思い出す毎に、今尚、深い感動と憧憬の情を喚起してくれます。曇鸞大師は西方を指して「萬物の終歸する所」と示され、善導大師は「西方極樂浄土」と教えられました。十方衆生の帰っていく所、それが西方であり、私達の此れの娑婆世界（此岸）に対して「彼岸」と呼ばれています。春秋の彼岸の中日、太陽の沈む真西の方角に、西方浄土の輝き念ひ、やがて私も帰っていくであろうお念佛の故郷に憧憬の情を喚起し慶ばせていたことが大切です。

それから数年後、再びインドを訪れた私は最南端のコモリン岬の落日を拝み、再び大自らの壮大な絵巻に圧倒されたことでした。アラビア海に沈む夕日、異郷で対面する落日の何と大きく感動的なことでしょうか。インド各地より此の聖地に集った数万人の群衆もまた、感動のまゝに合掌礼拝していた姿が今も消えません。

三寒四温の初春とは云えお彼岸はすぐそこです。春の訪れとともに往時の感動を想起しつつ、素直に理屈抜きで「西方極樂浄土」の「お彼岸」を一層慕わしく思う今日此の頃です。



## 本願寺神戸別院 「春季彼岸会」

しゅんきひがんえ

平成11年 3月 20・21・22日（土・日・月）

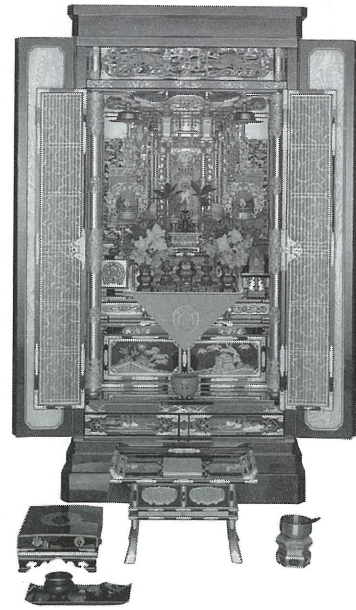
家族そろってお寺にお参りしましょう。





## 特集「浄土真宗の作法」 第3回

## お仏壇



人口の流動化や核家族化などの社会情勢の変化によって、最近では何世代にもわたって同じ家に住むことがめっきり減り、次々と新しい家が建ち、また引越しも頻繁に行われています。そうして移り住んだ家には、特に若い世代を中心に、昔ほどの家にも必ずあったお仏壇が、安置されていないケースが増えてきました。

「なぜ、お仏壇がないのですか」と尋ねてみると、「げげんそんな顔で「まだ誰も死んでいませんから」とか「仏壇はいなかにありますから」といった言葉が返ってきます。（誰も死んでいない）とは、考えてみれば妙な話で、私につながる数限りないご先祖の方々が死んでいったはずなのですが…」また「何



もない（誰も死んでいない）のに、お仏壇を買ったと、死人が出ると聞きました」と言われる方もいます。こうした言葉の裏には、お仏壇は今生きている家族の誰かが死んで初めて必要になるものである、ご先祖も子孫の誰か一人が面倒を見れば事足りる、といった認識があるようです。さらに言えば、お仏壇は「死者や先祖をおまつりする

ためのもの」と思っているのです。

死者をまつるためのお仏壇を安置するのですから、死者がいなければ困るわけです。「お仏壇を先に買うと、入るべき死人が出る」という短絡的な発想も、そこから生れてきたのでしょうか。

あるお寺の集まりでこの迷信のお話をされたとき、お年寄りはいいていの人が知っていて、「やめときつて言っているのにお仏壇を買うもんだから、買ったとたん誰それが死んでしまつて…」と真顔で言い出したものですから、さすが「死ぬ前に買えて、間に合つてよかったですね」と話されたことがあったそうです。

お仏壇を買ったからといって、それが原因で死ぬわけではありません。（また、そういう因果関係はありません。）私たちは、私自身も含めて移り変わっていく物事の中で生きているのです。老いも若きもいつ死が訪れるかわからないのです。買う買わないにかかわらず、縁が尽きれば誰でもが死んでいくのです。お仏壇は、そうしたはかない人生を精一杯生きぬく依り所になるものなのです。

お仏壇というのは、文字通り「仏さまをご安置する壇」のことです。仏さまとは、言うまでもなくご本



尊である阿弥陀さまのこと。ちょっとしたことにこだわり、悩み、自己を見失いがちになる私をしっかりと抱きとめて、決して崩れることのない安らぎを与えて下さる阿弥陀さまです。お仏壇は、私の心の依り所となり家庭の精神的基盤となつて下さる「阿弥陀さま」をご安置するために設けるのです。

いじめ、家庭崩壊など心の問題が山積している昨今、しっかりとした心の依り所となる教えを聞き、家族そろつて阿弥陀さまに手を合わせることで、どれほど心豊かな家庭生活につながるかわかりません。ですから「いなかにあるから」とか「長男だけでよい」とか言わず、また「死人が出る」などど気にせず、独立した家庭であれば、必ずお仏壇を安置するようにして下さい。なお、購入の時期や日の吉凶も気にする必要はありません。

お仏壇購入をお考えの方へ

お仏壇購入の際に、いくつかふまえておいていただきたいことがあります。

○お仏壇を求めるときには宗派名をはっきり告げる。

(神戸別院は「浄土真宗本願寺派」です。)

○ご本尊・御影(親鸞聖人、蓮如上人)・御文章等は本山から受ける。  
(お仏壇の大きさに合うご本尊の大きさを、仏壇店に尋ねておいて下さい。)

○お仏壇で最も大切なのはご本尊・阿彌陀如来。

(ご本尊を通して、私に向けられた阿彌陀さまの願いを聞き、またご先祖の還った阿彌陀さまのお浄土を偲ぶ。)



浄土真宗のお勤め・お作法  
についてのののおたずねは  
TEL 078-341-5949  
神戸別院 まで

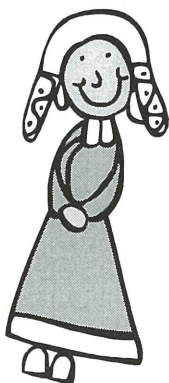
○お仏壇の購入と「死者が出る」との因果関係はない。  
(迷信に惑わされない。)

その他、浄土真宗のご門徒として気をつけたいことがいくつかございます。

「門徒もの知らず」という言葉がございます。この言葉は、真実の信心を頂き迷信に惑わされなかった私たちのご先祖の誇り高い言葉でもあります。

神戸別院では、いつでも皆さまのご質問をお待ちしております。お仏壇のことだけでなく、いろいろなご質問をお待ちしておりますので、お気軽にご質問下さい。

～ 春のお彼岸 ～  
**門信徒の集い**



春のお彼岸に「門信徒の集い」を開催することとなりました。  
お焼香の作法や仏教讃歌の指導など、いつもお参りしていただいている方はもちろん、初めての方もぜひお越し下さい。  
皆さまと一緒に学んでいきたいと考えております。

日 時 平成11年3月20日 午前10時より

内 容 第1部 合掌礼拝の仕方・お焼香の仕方 など  
講師 神戸別院職員  
第2部 仏教讃歌の練習  
講師 川西市 浄福寺 岩田茂子師

※集いの後、おときをご用意させていただきます。午後1時30分からの「春季彼岸会」にも引き続きお参り下さい。



モダン寺 テレホン法話 (078) 361-0091  
3/7～3/13 3/14～3/20 3/21～3/31

いつでも、どこでも聞いていただけます。  
1週間ごとに新しい法話がいただけます。

※ 4月1日より電話番号が変わります。

4月1日以降は (078) 341-8546 へ





## 神戸別院の行事レポート ～ 本山御影堂、平成の大修復 ～

### 本願寺御影堂平成大修復に際しての消息

このたび、有縁の皆様のご尽力とご協賛を得、本願寺御影堂の修復工事を行うことになりました。

御影堂は文永九年、東山大谷にあつた宗祖親鸞聖人の墳墓を吉水の地に移し、廟堂を建て、ご影像を安置したことに始まります。現在の御影堂は本願寺がこの地に落ち着いて四十年余り後、寛永十三年に建築され、今日まで、三百六十三年を経過しました。その間、寛政十二年より十年の歳月をかけた大修理のほか、数度の修理を経ていますが、今日、その傷みが甚だしく、寛政の修復にもまさる大修理を必要とするようになりました。

御影堂は親鸞聖人のみ教えを讃仰する私たちの心のふるさとであり、よりどころであります。聖人は、真に頼るものなく、自他のいのちを傷つけて生きていく私たち一人ひとりによびかけてくださる南無阿彌陀仏のお念仏をおすすめてくださいます。聖人のみあとを慕う人々は苦しみも悲しみも悦びも共にして、くださる御開山様親鸞様とこの真影様を仰がれ、心をこめて御影堂を護り、受け伝えてくださいます。

このたびの修復には、国の重要文化財として国庫の補助を受けますが、今日、世界遺産として登録されている文化財を創建護持して下さった先人の業績を後世にとどめるとともに、宗祖のみ教えを次の世代へ伝えようとする私たちの決意を表す事業として、僧侶門信徒のご懇念、一人でも多くの方のご協賛を得て、完遂を目指したく存じます。十年の歳月を要すると予想されます工事中には様々の困難があるかと思われませんが、立派に完成のうえ、宗祖七百五十回大遠忌をお迎えしたいと願っております。

平成十一年 一月十六日  
一九九九年

龍谷門主 釋即如

平成11年1月16日、京都の本願寺御影堂でのご正忌報恩講ご満座法要に引き続き「ご消息発布式」が行われました。ご門主様が「本願寺御影堂平成大修復に際しての消息」を親読され、ここに約200年ぶりの大修復が始まることとなりました。今回の大修復は昨年、100日間にわたって厳修された蓮如上人500回遠忌法要を中心とした遠忌総合計画の柱の一つで、平成9年度より別院門信徒の皆様をお願いしてまいりましたご懇志によって、行われるものです。10年後、修復が成ったおりには、是非ご参拝させていただきたいものです。

## 本願寺神戸別院 行事・法座予定

### 平成11年3月

- 「第一土曜仏教講座」 6日(土) 午後1時30分  
『転換期の社会で考えること』  
講師 浄土真宗本願寺派教学研究所部長 保篠祐尚氏
- 「仏教婦人会定例法座」 7日(日) 午後1時30分  
講師 西区 光源寺 宮里俊哲氏
- 「常例布教」 15・16日(月・火) 午後1時30分  
講師 朝来郡 照福寺 石田保孝氏
- 「門信徒の集い」 20日(土) 午前10時  
講師 川西市 淨福寺 岩田茂子氏
- 「春季彼岸会」 20・21・22日(土・日・月) 午後1時30分  
講師 滋賀県 願證寺 本多智道氏
- 「土曜講座」 13・27日(土) 午後1時30分  
講師 神戸別院職員

### 平成11年5月

- 「第一土曜仏教講座」 1日(土) 午後1時30分  
『佛教讃歌を歌おう』  
講師 和歌山教区紀南組勝徳寺住職・元佛教音楽研究所指導員 神谷 慧氏
- 「仏教婦人会定例法座」 7日(金) 午後1時30分  
講師 垂水区 菟照寺 藤田真哲氏
- 「常例布教」 16日(日) 午後1時30分  
講師 北区 高松寺 谷川弘顕氏
- 「宗祖降誕会」 15日(土) 午後1時  
講師 北区 高松寺 谷川弘顕氏
- 「土曜講座」 8・22・29日(土) 午後1時30分  
講師 神戸別院職員



### 平成11年4月

- 「第一土曜仏教講座」 3日(土) 午後1時30分  
『なぜ寺へ参るか、何を聞くのか』  
講師 和歌山教区加茂組真教寺住職・本願寺布教使 吾勝常晃氏
- 「仏教婦人会定例法座」 7日(水) 午後1時30分  
講師 北区 願生寺 柳川真隆氏
- 「常例布教」 15・16日(木・金) 午後1時30分  
講師 佐用郡 浄宗寺 富永真哉氏
- 「土曜講座」 10・17・24日(土) 午後1時30分  
講師 神戸別院職員



「<sup>しゅうきょう</sup>宗教はなぜ必要か」と問うことは  
「<sup>い</sup>なぜ<sup>ひつよう</sup>生きねばならぬか」と問うことです 『西田 幾多郎』